

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		土木課		道路整備係		No	1
施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)		小項目(基本事業)	
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり		5	生活交通の充実	1	生活道路の整備
事業名	道路改良事業(市道)						
予算費目	款	8	土木費		項	2	道路橋りょう費
	目	1	道路新設改良費		細々目	46,47	道路改良事業費(交付金、特定)
事務区分(根拠法令)		自治事務			()	予算種別	継続
							臨時

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
公共交通機関が不十分な地方では自家用車の必要性が高くなっているが、道路整備は遅れているため幅員が狭く見通しの悪い道路や交通量の多い道路で歩車分離がされていない道路などがあるため、市道整備を行う必要がある。		道路改良工事を行い、道路の安全性・快適性を向上させる。		利用者の要望を把握し事業個所を決定する。手順としては測量設計を行い地元説明の後、地権者との交渉により用地を確保する。その後、改良工事を行う。	
活動指標			成果指標		
事業費			改良済延長		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
260,000千円		136,700千円		81	
目標値A(単位)		実績値B(単位)			
222,900m		180,679m		%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	委託料	8,414	6,846,000	財(源割内合訳)	国庫支出金	(55)	51,850
	工事請負費	90,119	80,915,835		県支出金	()	
	公有財産購入費	48,938	48,938,000		地方債	(90)	76,300
					その他	()	
			一般財源		(10)	19,321	8,549,835
合計		147,471	136,699,835	合計		147,471	136,699,835
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		1.7	10,676,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
市道整備には多額の事業費が必要となるが、市の財政事情が厳しいため事業費が縮小され、事業完成までに多くの時間を要している。	道路整備のための財源確保に努める。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		土木課		道路整備係		No	2		
施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)		小項目(基本事業)			
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり		5	生活交通の充実	1	生活道路の整備		
事業名	小規模土木事業								
予算費目	款	8	土木費	項	2	道路橋りょう費	目	1	道路橋りょう総務費
	細目	1	道路橋りょう総務費	細々目	1	道路橋りょう総務費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
国道や県道、市道以外で市民の生活に必要な道路はあるが、行政が直接維持管理をしていないため、整備するときの住民の経済的負担が大きく整備されていない。		生活に密着する道路等を整備することにより、生活環境の向上が図られる。		自治会から申請のあった事業内容を審査・承認し、自治会が事業主体となって実施した工事に対して補助金を交付する。	
活動指標			成果指標		
補助金			実施件数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)	実績値B(単位)
24,000千円		23,949千円		40件	34件
					85%

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	補助金	24,000	23,949,000	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()		24,000	23,949,000	
合計		24,000	23,949,000	合計		24,000	23,949,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.9	5,652,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
市民生活に密着した事業で申請件数が多かったため、申請件数に対する事業費が不足しており、現在は、申請から施行まで約3年待たせている。	事業費を増額し、待機件数を減らす。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		土木課		道路整備係		No	3	
施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)			小項目(基本事業)	
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり			5	生活交通の充実		1 生活道路の整備
事業名	道路管理事業							
予算費目	款	1	土木費		項	2	道路橋りょう費	
	目	1	道路維持費		細々目	1	道路維持費	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()				予算種別	継続	経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
市道を適正に維持管理することは、道路管理者の務めである。		道路の安全性・快適性が向上する。		道路法に基づき道路台帳を整理する。道路パトロールを行い、危険箇所の補修を行う。道路の除草、清掃など維持を行う。道路占用物の許認可を行い、占用料を徴収する。	
活動指標			成果指標		
維持補修費			道路に関する苦情要望件数 (H20の苦情件数300件を減らす)		成果指標の到達度 (B/A)
目標値(単位)		実績値(単位)		33	
133,309千円		65,438千円		200件(-100件) 267件(-33件)	
%					

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	道路台帳	2,500	1,837,500	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
	需用費等	13,342	16,116,311		県支出金 ()	0	18,156,600
	補修費	40,400	49,046,636		地方債 ()		
	除草等	8,350	15,338,869		その他 ()		
	維持工事費	2,000	1,052,639		一般財源 ()	66,592	65,235,355
合計		66,592	83,391,955	合計		66,592	83,391,955

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	1.55	9,734,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題	改善策
市道延長の増加、施設の老朽化、予算不足で維持・補修ができない箇所が累積している。高齢化によって除草等の環境整備が自治会でできなくなっており、行政の負担が年々増加している。	道路維持予算の確保

事業の方向性(一次評価)	
B	事業の実施方法やコスト等について改善する検討が必要

その他	緊急雇用創出事業臨時特例基金補助事業を活用して、施設の点検や除草等の環境整備を行った。
-----	---

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		土木課		道路整備係		No	4			
施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)		小項目(基本事業)				
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり		5	生活交通の充実	1	生活道路の整備			
事業名	橋りょう管理事業									
予算費目	款	8	土木費		項	2	道路橋りょう費	目	3	道路橋りょう維持費
	細目	1	道路橋りょう維持費		細々目	1	道路橋りょう維持費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()				予算種別	継続	臨時		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
市道の橋りょうの中には、建設後50年以上が経過したものもあり、今後、大規模な補修や架け替えの必要性を内在している可能性がある。		老朽化した橋りょうの安全性が向上する。		全橋りょうを点検し、主要な橋りょうについての長寿命化修繕計画を策定し、計画的に修繕を行う。	
活動指標			成果指標		
点検事業費			補修・修繕済橋りょう数		
目標値(単位)		実績値(単位)		成果指標の到達度(B/A)	
9,000千円		8,030千円		0	
		72橋		0橋	
				%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	委託料	9,000	8,029,350	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()	9,000	8,029,350
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 ()				
合計		9,000	8,029,350	合計		9,000	8,029,350
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.1	628,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	C あまり目標を達成していない

4 ACTION

課題	改善策
点検した結果、主要な橋りょうの中に緊急性の高いものがあり、修繕を急ぐ必要がある。 また、橋りょうの修繕には、多額の費用が必要となる。	計画的な修繕で、予算の平準化を図る。 また、国庫補助事業の活用を検討する。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	緊急雇用創出事業臨時特例基金補助事業を活用して、橋りょうの点検を行った。
-----	--------------------------------------

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	商工労働課	商業労働係	No	26
大項目(政策)	中項目(施策)	小項目(基本事業)		
9 誰もが快適に暮らせるまちづくり	5 生活交通の充実	2	地域公共交通の利用促進	
事業名 地方バス路線維持対策事業				
款	7 商工費	項	1 商工費	目
細目	1 商工総務費	細々目	3 地方バス路線維持支援事業	会計種別
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()		予算種別
				継続
				経常

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)	事業の内容(対象・目的・意図)	事業実施の手段・手順		
市民の日常生活に必要なバス路線を維持するため、バス事業者3社に対して補助金を交付している。しかし、近年のバス利用者の減少や燃料価格の上昇等により地方バス路線維持費補助金が高額化しており、財政状況が厳しい中、多大な負担となってきた。一方で、高齢化の進展や合併に伴う生活圏域の広域化等により市民の生活交通ニーズは多様化しており、こうしたニーズに対応した効率的・効果的なバス路線への再編が必要となっている。	市民の日常生活に必要なバス路線を維持することにより、通勤・通学者、高齢者及び障がい者などの日常の移動手段の確保を図る。	地方バス路線維持費補助金の交付。国の補助基準による広域路線の補助金は、国が直接事業者へ補助する。国の補助対象路線を除く広域的な路線に対しては、県補助金を含めて市からの補助金として事業者に補助する。国・県の基準に達しない市内路線は、市からの単独補助となる。		
活動指標		成果指標		成果指標の到達度(B/A)
バス乗降調査		H22年度(H21.10.1~H22.9.30)バスの1日当たりの利用者数		
目標値(単位)	実績値(単位)	目標値A(単位)	実績値B(単位)	102 %
10回	10回	2,740人	2,794人	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	地方バス路線維持費補助金	134,575	134,575,000	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 (7)	8,000	8,830,000
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 (93)		126,575	125,745,000	
合計		134,575	134,575,000	合計		134,575	134,575,000
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.15	942,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	B 必要性がある	A 有効性が高い	B 効率性が認められる	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
近年のバス利用者の減少や燃料価格の上昇等により地方バス路線維持費補助金が高額化しており、財政状況が厳しい中、多大な負担となってきた。また、高齢化の進展や合併に伴う生活圏域の広域化等により市民の生活交通ニーズは多様化しており、こうしたニーズに対応した効率的・効果的なバス路線への再編が必要となっている。	①定期的に乗降調査等を実施し利用状況を把握する。 ②バス事業者と連携し路線の再編等に取組む。 ③バス事業者と連携し低床バスの導入や省エネ走行に取組む。 ④ノーマイカーデーにおけるバス利用等の促進を図る。

事業の方向性(一次評価)	
B	事業の実施方法やコスト等について改善する検討が必要

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		商工労働課		商業労働係		No	25		
施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)		小項目(基本事業)			
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり		5	生活交通の充実	2	地域公共交通の利用促進		
事業名	地域公共交通活性化事業(バス路線等の見直し検討事業)								
予算費目	款	7	商工費		項	1	商工費		
	細目	1	商工総務費		細々目	7	地域公共交通活性化・再生総合事業	会計種別	一般会計
事務区分(根拠法令)		自治事務			(地域公共交通の活性化及び再生に関する法律)		予算種別	継続	臨時

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順			
平成20年度策定の交通活性化計画を実行するために、平成21年3月に具体的な行動指針を示す地域公共交通総合連携計画を策定した。この計画に示す項目の中から、優先順位を考慮し関係機関の協力を得ながら、生活交通活性化に必要な事業に取り組む。		公共交通による効率的、効果的な広域移動、地域内移動の確保により、市民福祉の向上に努める。H22年度の主なる事業は、地域内移動サービスの見直しとして、高畑・高泊方面の路線の見直しを行った。		市は、山陽小野田市生活交通活性化協議会が、地域公共交通総合連携計画に沿った事業活動に取り組むことができるよう支援する。地域公共交通総合連携計画において重点的に取り組む事業の方向性は①市街地移動サービスの見直し ②地域内移動サービスの見直し ③交通結節点の機能強化			
活動指標			成果指標		成果指標の到達度(B/A)		
生活交通活性化協議会の開催回数			H22年度(H21.10.1~H22.9.30)バスの1日当たりの利用者数				
目標値(単位)		実績値(単位)		目標値A(単位)		実績値B(単位)	
3回		3回		2,740人		2,794人	
%							

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	交通活性化協議会負担金	6,576	6,576,000	財(源割内訳)	国庫支出金	()	
					県支出金	()	
					地方債	()	
					その他	()	
			一般財源		(100)	6,576	6,576,000
合計		6,576	6,576,000	合計		6,576	6,576,000

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
	0.25	1,570,000

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	B 有効性が認められる	B 効率性が認められる	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
H22年度に重点的に取り組む地域内移動サービスについては、高畑方面、高泊方面の路線は地域内移動において特に運行が非効率な路線である。これらの路線は他の路線と比較すると移動ニーズに対して提供するサービス水準が高く、行政負担が過剰になっている。	高畑方面、高泊方面は互いに近接しており、地域住民の主な目的地も小野田駅周辺であることから、運行資源である車両と運転手の共有化を図り効率的な運行を目指す。具体的には平成22年10月1日からこれら地域を循環する実証運行を開始した。今後は乗降調査等により利用状況を把握しマックスバリュへの乗り入れも検討することとする。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

		部署名	都市計画課		都市整備係	No	1		
施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)		小項目(基本事業)			
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり		5	生活交通の充実	3	駐車場・駐輪場の整備		
事業名	市営駐輪場管理運営事業								
予算費目	款	8	土木費	項	5	都市計画費	目	1	都市計画総務費
	細目	1	都市計画総務費	細々目	1	都市計画総務費	会計種別	一般会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
鉄道、バス等の利用者の利便性を考え、主な交通結節点に駐輪場を設けている。現在、市内には9箇所の駐輪場があり、1,576台の自転車を収容できる。		生活交通への接続の充実を目的として、駐輪場利用者に利便性のよい駐輪スペースを提供し、満足度を向上する。		放置自転車の撤去を実施することで、駐輪スペースを確保する。	
活動指標			成果指標		
収容台数			収容台数－放置自転車処理台数		
目標値(台)		実績値(台)		成果指標の到達度(B/A)	
1,576		1,576		100	
				%	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	使用料及び賃借料	815	814,816	財(源割内訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 ()		
			一般財源 (100)		815	814,816	
合計		815	814,816	合計		815	814,816
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.1	628,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課	題	改善策
なし		なし

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名		都市計画課		都市整備係		No	1		
施策体系	大項目(政策)			中項目(施策)		小項目(基本事業)			
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり		5	生活交通の充実	3	駐車場・駐輪場の整備		
事業名	市営駐車場管理運営業務								
予算費目	款	1	駐車場事業費	項	1	駐車場管理費	目	1	一般管理費
	細目	1	駐車場事業一般管理費	細々目	1	駐車場事業一般管理費	会計種別	特別会計	
事務区分(根拠法令)		自治事務 ()			予算種別	継続	経常		

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)		事業の内容(対象・目的・意図)		事業実施の手段・手順	
平成11年に完成した新幹線厚狭駅の利用者の利便性を考え、駅南口に駐車場を開設した。現在、安定した収益があるが、今後、区画整理完了後、民間の駐車場開設の可能性もあり、その場合は収益減も考えられる。		生活交通への接続の充実を目的として、駐車場利用者に利便性のよい駐車スペースを提供し、満足度を向上する。		駐車場の機器の維持、場内の清掃等を的確に実施することにより、利便性のよい駐車スペースを利用者に提供する。	
活動指標			成果指標		
駐車台数			駐車台数ークレーム数		成果指標の到達度(B/A)
目標値(台)		実績値(台)	目標値A(台)	実績値B(台)	99.9 %
67,160		28,990	28,990	28,986	

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	需用費	1,026	782,689	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
	役務費	186	186,021		県支出金 ()		
	委託料	1,234	1,123,370		地方債 ()		
	使用料及び賃借料	1,500	1,500,000		その他 (100)	4,702	4,203,180
	その他	756	611,100		一般財源 ()		
合計		4,702	4,203,180	合計		4,702	4,203,180
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
		0.1	628,000				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	B 概ね目標を達成している

4 ACTION

課題	改善策
平成19年度から人件費を計上しており、年々繰越金が減少している。平成22年の歳入が37,969,881円、歳出31,268,194円で繰り越し金6,701,687円となり、平成23年の人件費を支払うと繰越金はほぼなくなり、平成24年度は赤字となる。	平成24年度の人件費の計上をやめるべきである。

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	都市計画課	都市整備係	No	2
-----	-------	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)				中項目(施策)				小項目(基本事業)							
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり				5	生活交通の充実				3	駐車場・駐輪場の整備				
事業名	市営駐車場管理運営事業(元金)															
予算費目	款	2	公債費				項	2	公債費				目	1	元金	
	細目	1	公債元金償還費				細々目	1	地方債元金償還費				会計種別	特別会計		
事務区分(根拠法令)			自治事務 ()						予算種別		継続		経常			

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)			事業の内容(対象・目的・意図)			事業実施の手段・手順		
平成10年度から始まり、平成30年に終了する市営駐車場建設事業償還金の元金償還事業である。			生活交通への接続の充実を図るため建設した駐車場の建設費の残債を償還し、残債を減らす。			駐車場の安定経営に努め、償還金の支払いに必要な歳入を確保をし、償還金を償還する。		
活動指標				成果指標				成果指標の到達度(B/A)
償還額(元金)				累計償還額(元金)				
目標値(円)		実績値(円)		目標値A(円)		実績値B(円)		100 %
172,931,805		172,931,805		172,931,805		172,931,805		

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	償還金、利子及び割引料	16,863	16,862,329	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 (100)	16,863	16,862,329
			一般財源 ()				
合計		16,863	16,862,329	合計		16,863	16,862,329

人件費概算	人工数(人役)	人件費(円)
		0

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課題	改善策
なし	なし

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--

平成22年度 事務事業評価シート

部署名	都市計画課	都市整備係	No	3
-----	-------	-------	----	---

施策体系	大項目(政策)				中項目(施策)				小項目(基本事業)							
	9	誰もが快適に暮らせるまちづくり				5	生活交通の充実				3	駐車場・駐輪場の整備				
事業名	市営駐車場管理運営事業(利子)															
予算費目	款	2	公債費				項	2	公債費				目	2	利子	
	細目	1	公債利子償還費				細々目	1	地方債利子償還費				会計種別	特別会計		
事務区分(根拠法令)			自治事務 ()						予算種別		継続		経常			

1 PLAN

事業の背景(事業が始まった経緯、現況)			事業の内容(対象・目的・意図)			事業実施の手段・手順		
平成10年度から始まり、平成30年度に終了する市営駐車場建設事業償還金の利子償還事業である。			生活交通への接続の充実を図るため建設した駐車場の建設費の残債を償還し、残債を減らす。			駐車場の安定経営に努め、償還金の支払いに必要な歳入を確保をし、償還金を償還する。		
活動指標				成果指標				成果指標の到達度(B/A)
償還額(利子)				累計償還額(利子)				
目標値(円)		実績値(円)		目標値A(円)		実績値B(円)		100 %
61,992,511		61,992,511		61,992,511		61,992,511		

2 DO

歳出		予算現額(千円)	決算額(円)	歳入		予算現額(千円)	決算額(円)
支出内訳	償還金、利子及び割引料	2,935	2,934,033	財(源割内合訳)	国庫支出金 ()		
					県支出金 ()		
					地方債 ()		
					その他 (100)	2,935	2,934,033
			一般財源 ()				
合計		2,935	2,934,033	合計		2,935	2,934,033
人件費概算		人工数(人役)	人件費(円)				
			0				

3 CHECK

事務事業の評価	必要性	有効性	効率性	成果指標の達成度
	A 必要性が高い	A 有効性が高い	A 効率性が高い	A 目標どおり達成している

4 ACTION

課 題	改 善 策
なし	なし

事業の方向性(一次評価)	
A	計画どおり事業を進めることが適当

その他	
-----	--